

2026 年 10 月 8 日

Panasonic GREEN IMPACT

日本で培った再生・資源循環の知見を ASEAN へ

パナソニック、ベトナム・フィリピンで使用済み家電の回収・再資源化実証を開始

使用済みエアコンの回収方法と、再生・再資源化の可能性を検証

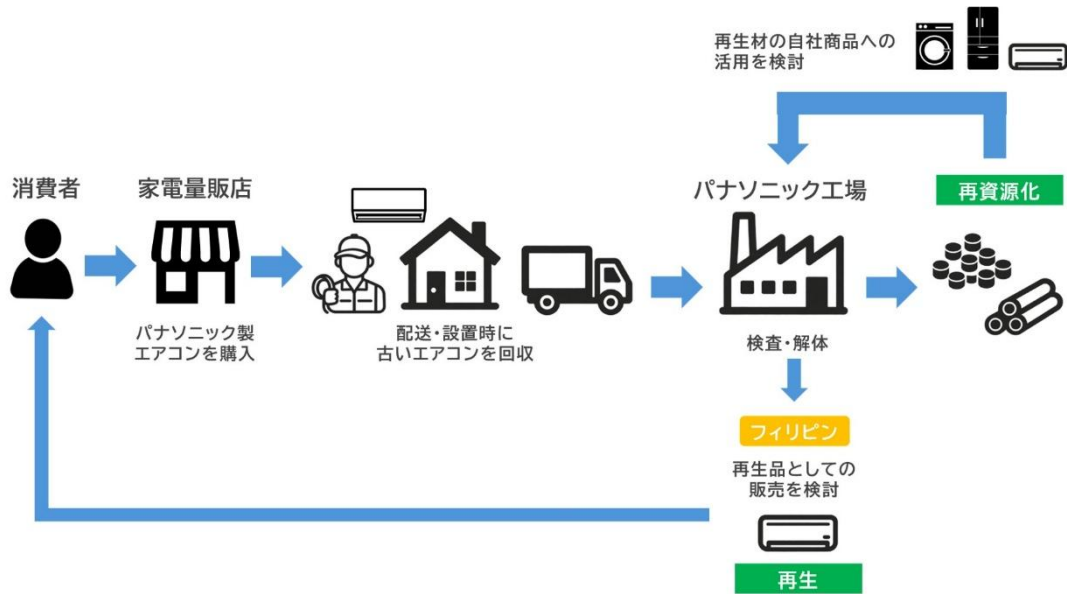
パナソニック株式会社（以下、パナソニック）は、ベトナムとフィリピンで、使用済みエアコンの回収および再生・再資源化に向けた実証を開始します。本取り組みは、パナソニックグループの長期環境ビジョン「Panasonic GREEN IMPACT (PGI)」に基づくもので、ベトナム、フィリピンともに 2026 年 10 月から 2027 年 3 月末まで実施する予定です。

ASEAN では、経済成長に伴い家電の普及が進む一方、使用済み家電を適正に回収・処理する仕組みの整備が課題となっています。特にエアコンは冷媒を含むため、適正な回収・処理が欠かせません。パナソニックは、日本で培ってきた家電リサイクルの技術・知見や再生品販売のノウハウを生かし、本実証を通じて使用済みエアコンの適正な回収・処理と再生・再資源化を進め、資源の有効活用につなげます。

ベトナムでは、パナソニック ベトナム有限会社（以下、PV）が家電量販店の Cao Phong 社と連携し、2026 年 10 月 8 日から 2027 年 3 月末まで実証を行います。また、フィリピンでは、パナソニック マニュファクチャリング フィリピン株式会社（以下、PMPC）が家電量販店と連携し、2026 年 10 月から 2027 年 3 月末まで実証を行う予定です。両国とも、連携する量販店でパナソニック商品を購入したお客様を対象に、それぞれ使用済みエアコン 500～1,000 台の回収を目指し、量販店の販売網を活用した回収スキームを検証します。また、回収したエアコンの再資源化に加え、再生材を自社商品に活用する可能性を検証します。さらにフィリピンでは、回収したエアコンを再生品として販売する可能性についても検証します。これらの実証は、環境省の「国際金属資源循環促進業務」の一環として実施します。

パナソニックは、ベトナムとフィリピンでの実証で得た知見をもとに、ASEAN を中心に各国・地域の制度や市場環境に合わせて、家電を長く使い続けられる仕組みづくりと、使用済み家電の適正な回収・再生・再資源化の取り組みを広げていきます。そして、家電と資源の価値を最大限に生かし、サーキュラーエコノミーの実現に貢献していきます。

使用済みエアコンの回収・再生・再資源化の流れ



■ベトナム：使用済みエアコンの回収スキームを検証、再資源化・再生材の自社商品への活用も視野に

ベトナムでは、電気・電子製品への拡大生産者責任 (Extended Producer Responsibility、以下、EPR) の適用が 2025 年 1 月に始まり、使用済み家電を適正に回収し、資源循環につなげる仕組みづくりが求められています。

こうした背景から、PV は現地大手家電量販店の Cao Phong 社と連携し、2026 年 10 月 8 日から使用済みエアコンの回収実証を開始します。Cao Phong 社の店舗でパナソニック商品を購入したお客様を対象に、買い替え時に使用済みエアコンを買い取ります。回収対象はパナソニック製に限らず他社製も含み、2027 年 3 月末までに 500～1,000 台の回収を目指します。本実証を通じ、量販店の販売網を活用した使用済みエアコンの回収方法や、継続的に運用可能な回収スキームの構築に向け、運用面および事業面の実現可能性を検証します。



Cao Phong 社との調印式(2026 年 9 月 21 日、ベトナム・ホーチミン)

パナソニック ベトナム 社長 藤野貴康(左)と Cao Phong 社 Deputy Director Trang Hong Thai(右)

回収した使用済みエアコンは、将来的に解体して素材別に分別し、再生資源として活用することを検討しています。今後は、対象家電の拡大に加え、得られた再生材をベトナム国内で生産する自社商品に活用することなども検討していきます。

■フィリピン:使用済みエアコンの回収・再生・再資源化を検証

フィリピンでは、PMPC が現地大手家電量販店と連携し、2026 年 10 月に使用済みエアコンの回収実証を開始する予定です。回収対象はパナソニック製に限らず他社製も含み、2027 年 3 月末までに 500～1,000 台の回収を目指します。実証では、量販店の販売網を活用した使用済みエアコンの回収方法や再資源化に加え、再生材を自社商品に活用する可能性を検証します。また、回収したエアコンを再生品として販売する可能性についても検証します。

PMPC では家電を長く使い続けられる取り組みとして、2025 年 11 月に、再生した冷蔵庫 80 台を販売する実証を実施しました。2026 年 9 月からは、初期不良品などで戻ってきた冷蔵庫を厳格な品質基準のもとで再生し、「Panasonic Refresh」として D2C サイトを通じて販売する実証を開始しています。商品の状態に応じてランクを設定し、購入から 1 年間の保証を付けて販売することで、家電を廃棄せず再び活用するとともに、より多くのお客様が高品質な家電を選べる機会を広げています。

「Panasonic Refresh」ウェブサイト(英語のみ)

<https://store.apac.panasonic.com/ph/refurbish-top>



「Panasonic Refresh」再生冷蔵庫の冷却性能検査(フィリピン)

■日本で培った再生・資源循環の知見を ASEAN へ

パナソニックは日本国内で、パナソニック検査済み再生品(保証付)「Panasonic Factory Refresh」の展開や、使用済み家電を回収・解体し、鉄、銅、樹脂などを再び資源として活用する家電リサイクルに取り組んでいます。こうした取り組みを通じて培った家電の再生・品質管理や、使用済み家電の回収・再資源化の知見を生かし、ベトナムとフィリピンで、それぞれの市場環境に適した資源循環の仕組みを検証します。

＜パナソニックグループの環境取り組み＞

パナソニックグループは、「より良い暮らし」と「持続可能な地球環境」の両立に向け、長期環境ビジョン「Panasonic GREEN IMPACT (PGI)」を制定しました。2030 年までに全事業会社の拠点における CO2 排出量を実質ゼロ(※1)に、また 2050 年に全世界の排出総量の約 1%にあたる年 3 億トン以上(※2)の削減貢献インパクトの創出と、資源効率が脱炭素化に寄与し限られた天然資源の消費を削減するサーキュラーエコノミー実現に向けた事業活動に取り組んでいます。

※1: 当社グループが取り組む CO2 ゼロの工場とは、省エネ技術、生産性向上などの推進と再生可能エネルギーの利活用の推進などを組み合わせ、化石燃料由来 CO2 の排出をオフセットするクレジットの活用により CO2 排出を実質的にゼロにすることを指します。

※2: 全世界の排出総量の約 1%にあたる年 3 億トン以上:

PGI の起点である 2020 年の全世界のエネルギー起源 CO2 排出量 (出典:IEA)による (CO2 削減貢献量の排出係数は 2020 年基準)

<https://holdings.panasonic.jp/corporate/panasonic-green-impact.html>

以 上

【報道関係者様お問合せ先】 パナソニック株式会社 広報部

Tel: 03-3492-5638

e-mail: pchg_prstaff@ml.jp.panasonic.com